



第3回多文化共生シンポジウム
(群馬大学ミューズホールにて 2003.3.25)

2002

根岸孝明さん（工学部4年）

「活動の規模が大きくなるとともに、自分も少しづつ成長してきたと感じます。これからが新たなスタート！」

磯佳代子さん（教育学部4年）

「群大が特色のある大学として認められたことを誇りに思います。結城先生の行動力に感服しました」

栗原健児さん（社会情報学部4年）

「礎を築いた先輩方、未来を担う後輩たち。それをつなぐ役目を、この1年で果たしていきたいと思います！」

萩原貴之さん（教育学部3年）

「特色GP採択という快挙にただ驚くばかりです。その重みに対するプレッシャーに負けないよう、これから活動一つひとつを精一杯頑張っていきたいと思います」

井上睦さん（教育学部2年）

「PCDCの活動を通して、今まで住んできた大泉町の良い面をたくさん知り、改めて故郷が好きになりました。この活動でしかできない貴重な経験を、自分の成長につなげていきたいです」

有路登志紀さん（医学部1年）

「自己満足で終わらず、認められるものを作っていくことが大切だと実感しました。これからも頑張っていけることに感謝します」

スポットライト

—舞台裏で支える人々— 「特色GP採択決定！学生・OB・OGの声」
2回目となる今回は、プロジェクトで活動している学生たちと、そこから巣立つ卒業生を取り上げます。特色GP採択に際し、喜びの声や決意、思い出などを聞きました。

和田篤史さん（2003年度社会情報学部卒業）

「私たちの活動が必要とされているのが世間に認められた。さらなる飛躍のチャンス！ますますの活躍を期待します」

藤原史一さん（2003年度教育学部卒業）

「頑張っている様子を聞くと、戻って一緒に活動したい気分。今の仕事を続けられているのはPCDCのおかげです」

法橋祐介さん（2003年度社会情報学部卒業）

「強いエネルギー、高い志、前向きな気持ち。PCDCのメンバーには、大きな力があります」

林かおりさん（2004年度教育学部卒業）

「PCDCの活動は常に真剣勝負でした。その分、楽しさを感じました。今の生活でもそれは活きてています」

稻垣進也さん（2004年度教育学部卒業）

「さまざまな体験を通して、人とのかかわりの大切さを学びました。ここでしかできない『特色ある』体験です」



開発教育地域セミナー in ぐんま
(群馬県庁にて 2003.11.30)

2003



群馬大学にて (2004.11.15)

2004



だんべえフェスタ2005 (2005.7.10)

2005

編集後記

今回は特色GP採択を記念し、今までの活動の軌跡を、これまで応援してくださった地域のみなさまの声とともに紹介させていただきました。編集の過程で数々の思い出が浮かび、たくさんの方々にお世話になったことを改めて実感とともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。紙面の中でそのすべてを紹介できないのが残念です。

特色GPが採択されたこの時期に発行することとなった第4号は、PCDCにとって節目でもあり、新たな第一歩でもあります。今後さらなる飛躍を遂げる一心で、学生もそれぞれがプロジェクトの一員であるという誇りを持って歩んでいくことを誓います。

チーム「小鳥遊」広報紙班：福田依里（編集長）
尾久・片山・栗原・瀬谷・高橋

発行元：群馬県・群馬大学「多文化共生教育・研究プロジェクト」
編集担当：チーム「小鳥遊」
監修：結城 恵（「多文化共生教育・研究プロジェクト」代表）

〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
多文化共生教育・研究プロジェクト推進室（結城研究室）

Tel/Fax 027-220-7382(ダイヤルイン)
e-mail pcdc@edu.gunma-u.ac.jp

☆プロジェクトホームページ☆
<http://tabunka.jimu.gunma-u.ac.jp/top.html>

ご意見・ご感想などございましたら、上記までお気軽にご連絡下さい。

Orion

群馬県・群馬大学
「多文化共生教育・研究プロジェクト」
広報紙「オリオン」
第4号
2005年10月14日発行
日本語版

国立大学法人群馬大学長

鈴木 守



新しい地域文化の創造をめざして

1908年に日本から791名の移民がブラジルに入植しました。その後世界情勢は大きく変化し、かつてブラジルに移民した日系人をはじめ、多くの国の人々が今度は日本に来て働く時代となりました。さまざまな文化を背景とする人々が群馬において調和し合い、互いに高め合って未来社会を創造していかなければなりません。特に教育分野において多文化共生の模範的モデルを作り上げることは緊急の課題です。「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」が特色GPに採択されたことは、群馬大学の今までの実績が評価され、今後の成果が国からも期待されていることを意味しています。県民の皆様の理解とご協力を基に新しい時代の地域文化創造を目指しましょう。

「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」が文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択されました！

平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」（主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ）

事業名称：「多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成」
—地域協働ネットワークを活用した専門的職業人の育成—

取組単位：全学部 事業推進責任者：結城 恵



平成2年度の出入国管理及び難民認定法改正以降、外国人住民の定住化が進む群馬県では、多文化共生社会の構築は、近未来の日本を考える上で最も重要な地域課題のひとつとなっています。外国人住民が増えるにしたがい、外国人居住地域での日本人と外国人との異文化間摩擦が表面化してきました。学齢期にありながら不就学状況にある外国人児童生徒、ゴミの出し方や騒音による住民の対立等、多文化地域の課題が山積しています。これらの解決策のひとつとして必要とされているのが、「共生マインド」を持った人材の育成です。本プログラムでは、地域課題を解決し、多文化共生のまちづくりに寄与する、教員・医師・保健師・エンジニア・行政関係者等の育成を行います。

本プログラムでは、「地域課題の抽出から施策提言・実践まで」を理論的かつ体験的に学びながら、「課題抽出力」（フィールド調査を行い、外国人集住地域の実態を構造的に把握し課題を抽出する力）、「協働解決力」（課題解決に必要な分野・領域の機関・人材をコーディネートし、協働で課題解決を図る力）、「提言実践力」（多文化共生社会の構築に求められる対応策を専門領域から具体的に検討し実践する力）の、3つの力を養成します（図1）。

図1 養成する3つの力

課題抽出力 外国人集住地域の実態を構造的に把握し課題を抽出する力。

協働解決力 課題解決に必要な分野・領域の機関・人材をコーディネートし、協働で課題解決を図る力。

提言実践力 多文化共生社会の構築に求められる対応策を専門領域から具体的に検討し実践する力。



本プログラムを遂行していくには地域との連携が不可欠です。本学は、「地域協働ネットワーク」の協力を得てその実効性を高めます。大泉町にある群馬大学・大泉町「多文化共生・教育プロジェクト推進室」は「課題抽出力」の育成の場に、大泉町「多文化共生コミュニティーセンター」は、「協働解決力」の育成の場に、群馬県「多文化共生支援室」は、「提言実践力」の育成の場として連携を深めて参ります（図2）。

このようにして本学では、現場に根ざし、地域の実状と住民の視点に立って地域課題を具体的に解決する職業人を育成します。Act Locally, Think Globally という本学のモットーのもと、群馬大学から全国・世界に発信できる、「共生マインド」をもつた専門的職業人の教育モデルを構築して参ります。【結城 恵：教育学部助教授】

山口和美さん（群馬県新政策課多文化共生支援室室長）
「興味や専門分野により分かれた9つのチームの地域に根ざした活動こそ多文化共生社会に向けての原動力です。これからも、共に考え、共に行動し、地域における輪を広げていきましょう」



健康・進路・防災相談会
(大泉町文化むらにて 2005.3.21)



在日外国人学校健康診断
(日伯学園にて 2004.2.13)



学習支援の一環で行われたお楽しみ会
(大泉町立西小学校にて 2003.12.19)

放課後学習サポート
(大泉町立南中学校にて 2003.12.15)

医療サポート事業

学校保健法の適用外になっている外国人学校等の子どもたちに、年に1回の健康診断を提供しています。また、その結果をもとに、子どもと保護者を対象に健康相談会を実施しています。



星と太陽体験学習
(国立ぐんま天文台にて 2004.2.20)



だんべえフェスタ2005
(前橋七夕まつりにて 2005.7.10)

交流サポート事業

相互理解は、交流から。母国の文化を紹介しあったり、スポーツや音楽を通して親交を深めたりする場をつくりました。発見・感動・学びの交流もあります。



防災訓練
(ブラジリアンプラザ駐車場にて 2004.12.12)

防災サポート事業

防災ガイドマップの作成やワークショップの開催を通して、防災情報を提供し、地域住民の方々が安心して生活できる社会づくりをめざします。



防災アンケートヒアリング
(大泉町公民館にて 2005.3.3)



佐藤途見子さん（PCDC企画・通訳サポーター）
「大学内で地域社会が直面している課題を研究テーマ（ブラジリアンプラザ駐車場にて 2004.12.12）として取り組むことは双方にとって有意義なことです。学生たちが、この事業に目を輝かせて参加しているのを見し、社会で大いに活躍できると確信しています」



糸井昌信さん（大泉町立図書館長）
「学生の皆さんのがキャンパスから出て地域の中へ入り、さまざまな分野で活躍をしている。本当に素晴らしい!これからもアイデアとガツツで頑張ってください。期待しています」



山口和雄さん（大泉国際交流協会会長）
「皆さんが持っている『共生マインド』には、明るい未来が見えます。これからも、多文化共生社会の実現に向け、果敢なチャレンジを続けてください」



山本明さん（群馬県企画理事）
「このたびの『特色のある大学教育支援プログラム』への選定は、指導者である結城先生の下、学生諸君の様々な活動が認められた結果です。共生マインドを持つ諸君の更なる活躍を大いに期待します」



長谷川洋さん（大泉町長）
「近い将来、全国各地で課題となる『多文化共生』に、いち早くさまざまな形で取り組んでいる群馬大学の皆さん。皆さんの若いパワーと豊かなアイデアに期待しています」



登坂利彦さん（大泉町教育委員会教育長）
「『共生マインドをもった人づくり』これこそが、皆さんとの取り組みと大泉町民の共通項。多文化共生社会づくりに知恵の共有を」

教育サポート事業

生まれ育った文化や言葉が異なる子どもたちが混在する学級で、どのように教えたらいいのだろうか?多文化共生の教育実践を、学校教育現場の先生方と共に考え、実践を積み重ねています。

軌跡

成長の足跡、さらなる一步へ

実態調査

多文化地域で生活する人々の生活実態を調べ、地域の課題とその構造を明らかにします。これまで、不就学児童・生徒の実態調査や地域住民の防災意識調査等を実施しました。



戸別調査打ち合わせ（大泉町にて 2005.3.5）



データ整理（群馬大学にて 2004.10.21）



多文化共生支援者養成講座
(大泉町文化むらにて 2005.5.27)



地域貢献活動学生協力者養成講座
(国立赤城青年の家にて 2005.9.13)

多文化共生支援者の養成

群馬県内外の多文化地域の最前線で、行政、教育、医療、ボランティアとして活躍している方々を講師に、共生社会をどう築いていくべきかを考えます。「地域と共生」のとらえ方、諸活動の企画・運営の過程、これから取り組むべき課題など、熱い議論が展開します。

情報提供・発信

多文化共生シンポジウムの開催、ホームページ・CD・広報紙の作成を行っています。これらを通してPCDCの活動を県内外に紹介しています。



広報紙「オリオン」



第4回多文化共生シンポジウム
(群馬大学にて 2004.2.27)



高野祥子さん（NPO大泉国際教育技術普及センター代表）
「チーム小鳥遊（たかなし）の名のように多文化の空間を小鳥のごとく飛び廻り、さえずり遊びながら輪を拓げ、強固なチェーンを作る事を願っています」



岡田輝美さん（大泉町国際政策課長）
「外国语住民の集住する町では、多文化共生社会の構築は大きな課題のひとつです。大泉町でのインターンシップの経験を活かし、共生マインドを持つ職業人となることを大いに期待します」

多文化共生 インターナーシップ

多文化地域で、「共生マインド」をもった職業人として活躍できる人材を育てるためのインターンシップを実施しています。学生たちは、行政・教育・医療機関等で、地域の諸先輩方から知識・技能を「共生マインド」とともに体験的に学習します。



大泉町立図書館でのインターンシップ
(大泉町文化むらにて 2005.8.28)



大泉町立西保育園でのインターンシップ
(2005.8.24)



矢野純一郎さん（三洋電機株顧問）
「産業界のグローバル化は急速に進んでおり、その結果、多種多様な外国人との共生が重要課題となっている。このような時代に、本プロジェクトは特筆すべきものであり、大いに期待する」